

9月15日(金) ワークショップ第4室(723)

制度・体制

文教大学 田中慎也

1. JACET ハンドブック第二集の作成を終わって

大学設置基準の改正にともない、大学の学部教育課程における外国語教育のあり方についての見直しが始められた。本委員会では、アンケート調査を中心に、平成5年度以降の約160大学の改革動向の調査・分析を行い、大学における外国語教育の実態を明らかにするとともに、そのあり方についての自己点検・評価基準の作成を試みた。

アンケート調査の調査領域は以下の通りである。

- ①学部・学科教育課程の中の外国語教育に関する全般的項目
- ②外国語教育のカリキュラム
- ③履修形態と制度
- ④入学者選抜と外国語
- ⑤授業
- ⑥成績評価
- ⑦外国語教育の体制・条件

調査方法は、1995年2月10日～2月28日に本学会理事・評議員・研究企画委員および理工系大学等に勤務する本学会会員の合計352名に無記名選択回答方式で行い、回収率は50%であった。

以上のような調査・分析の中から、本ワークショップでは特に「制度・体制」「カリキュラム」「履修方法」「入試・授業」のテーマに焦点をあて、その実態の紹介と論議はかりたい。

2. 制度・体制

ここでは、外国語教育と単位互換の制度に絞って論を進めたい。まず、現行制度上単位互換が可能な対象機関間の種別は以下のようなものが考えられる。

- ①海外留学(a)長期(b)短期
- ②国内留学
- ③放送大学
- ④京都・大学センター方式等
- ⑤技能審査の合格(英検等)
- ⑥講習又は公開講座
- ⑦大学・他大学
- ⑧同一大学学部間
- ⑨大学・短大(a)他大学・短大(b)同一法人大学・短大
- ⑩大学・専門学校(a)大学・他専門学校(b)同一法人大学・専門学校
- ⑪短大・短大
- ⑫短大・専門学校(a)短大・他専門学校(b)同一法人短大・専門学校

これらの中から本ワークショップでは特に「技能審査の合格」と外国語科目との単位互換の問題を取り上げたい。

アンケート調査でも技能検定試験の利用賛成者は反対者を上回っている。しかし、この制度のfunctional meaningはいかなるものなのであろうか。砂漠を旅する賢明な旅人は地平線上の一点が何を意味するかを察知するという。

しばし共に論議してみたい。